

受賞団体の活動の概要

＜農林水産大臣賞＞ — 総合的に優れた取組 —

い お おたに
伊尾・小谷たえクラブ（広島県 世羅町）

農家、自治会、小学校、博物館、大学等が連携して、希少種のダルマガエルの保全や生活史に配慮した営農による「ダルマガエル米」の生産に取り組むとともに、希少種のギフチョウの生息環境保全のため、食草のミヤコアオイの植栽・管理活動を行い、小学校の環境学習を通して地域全体に「たえ（田んぼ）っておもしろえ」と、農と生き物の暮らしを結ぶ楽しさを伝えている。



水田と一体化したダルマガエル保全ピオトーブ



ピオトーブでの「ダルマガエル米」の田植え

＜農村振興局長賞＞ — 農業・農村振興、地域づくりに向けた取組 —

ながさわ
長沢環境保全の会、長沢ふなっ子の会（滋賀県 米原市）

琵琶湖特産のニゴロブナ等の生息環境を、排水路堰上げ式の魚道整備により復元するとともに、集落営農により「魚のゆりかご水田米」の生産に取り組むなど、「魚と共に育った安全安心なお米づくりの村」を目指している。ゆりかご水田でのお魚観察会には、地元子どもとともに近くの一般市民も集まり、環境学習や地域交流の場として地域づくりに取り組んでいる。



排水路堰上げ式魚道の設置



ゆりかご水田・排水路でのお魚観察会

＜自然環境局長賞＞ — 自然生態系の保全・再生に向けた取組 —

にいやまさんやそう
新山山野草等保護育成会（長野県 伊那市）

希少種であるハッチョウトンボの生息している湿地に車が乗り入れるなど、生息環境を脅かす出来事があったことから、それを防ぎつつ自然学習の場として活用するために「トンボの楽園」を整備し、生息環境を保全・管理している。また、荒廃化した農地を整備し、ザゼンソウなど地域に自生する山野草の植栽・繁殖に取り組んでいる。



トンボの楽園での木道整備



トンボの楽園での親子自然学習

＜子どもと生きもの賞＞ — 子供たちの環境教育への取組 —

もとよし おおや 本吉町立大谷中学校（宮城県 本吉町）

3年間を通して取り組む環境保全教育を行っており、近隣の幼稚園や老人クラブなどと連携して、1年生が松枯れ対策として黒松の植林・アカゲラの巣箱設置、2年生が磯焼け調査や海藻の再生実験、3年生がふゆみずたんぼでの水稻栽培を行うなど、里山・里地・里海の広範にわたる活動により地域の環境保全に取り組むとともに、地域を想う気持ちを育てている。



ふゆみずたんぼでの除草作業



田んぼの生きもの調査

＜パートナーシップ賞＞ — 多様な主体が連携した取組 —

ごせん 特定非営利活動法人 五泉トゲソの会（新潟県 五泉市）

地元農家、研究者、教育関係者、東京在住の地元出身者、大学生など多様な主体の連携により、絶滅危惧種であるトゲソ（イバラトミヨの地域俗称）を保全するため、トゲソの生息する湧水池・水路の保全、観察会や清流スクールの開催、生息調査、小学校総合学習の支援、他の生息地との交流、一般市民への啓発等幅広い活動を展開している。



トゲソの生息する保護池



小学校の総合学習（水路での現地学習）

＜オーライ！ニッポン賞＞ — 都市と農村の共生・対流によって実施している取組 —

きたおしおゆーとびあ 北小塩友人ピア環境保全推進協議会（宮城県 大崎市）

地区内の農業用土水路をそのまま残し「北小塩友人ピアいきもの水路」と命名して、水田魚道の設置などにより魚類、貝類等の生態系を保全している。また、減農薬・減化学肥料稲作栽培など生き物に配慮した農業生産に取り組みながら、生きもの観察会や田植え・収穫体験などを通じて都市住民との交流を展開している。



都市住民との交流イベント（収穫体験）



いきもの水路での生物観察会

＜朝日新聞社賞＞ — 活動内容が幅広く、社会的貢献度が高い取組 —

特定非営利活動法人 ^{にいさと}新里昆虫研究会（群馬県 桐生市）

荒廃した山林・田畑を再生管理することで昆虫の生息地を蘇らせるとともに、「新里自然体験村」と名付け、小中学生や会員の自然体験教室、昆虫調査、棚田の田植え等の活動フィールドとして活用している。また、地域活動として地域内のため池の管理やホタルの保護活動、彼岸花の里づくりに取り組むなど、まちづくりに関わる幅広い活動を展開している。



荒廃した山林の再生・管理



小中学生による昆虫調査

平成20年度田園自然再生活動コンクール 受賞地区位置図



※前年度までの受賞団体等の情報は（社）農村環境整備センターまで。

URL : <http://www.acres.or.jp>